

# 平成26年度中学生チャレンジテストの結果概要【学力調査の概要】

大阪府教育委員会

## ○学力に関する調査

- ・中学校第1学年：国語、数学、英語
- ・中学校第2学年：国語、社会（選択問題A・B・C）  
数学、理科（選択問題A・B）、英語

## ○学習状況に関する調査

- ・生徒アンケート

## ○調査対象

- ・中学校及び支援学校中学部第1学年
- ・中学校及び支援学校中学部第2学年

## ○実施校数(1月14日実施分)

- ・中学校第1学年：465校
- ・中学校第2学年：468校

## ○実施生徒数(1月14日実施分)

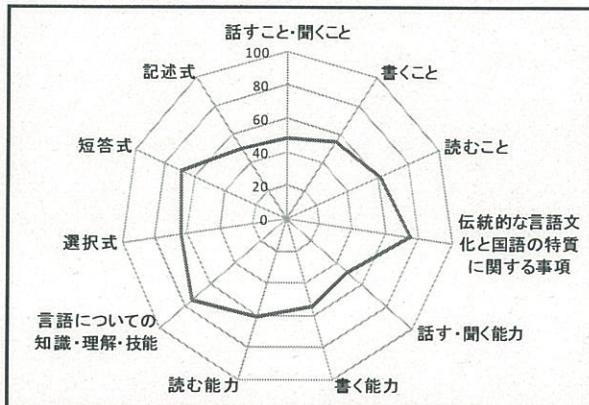
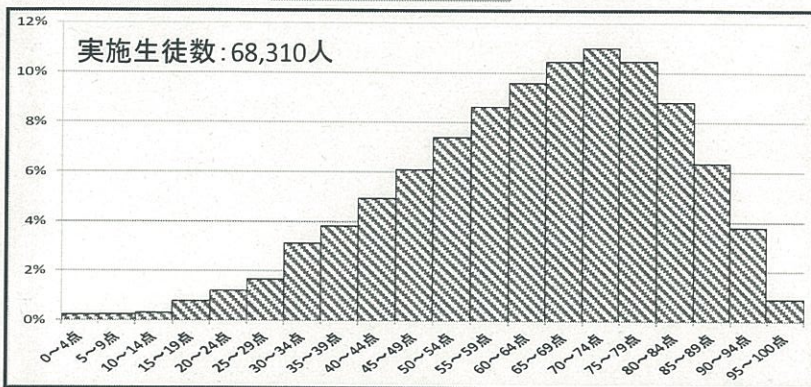
- ・中学校第1学年：68,534人
- ・中学校第2学年：68,710人

### 中学校1年【国語】

平均得点  
**63.2点**

無解答率  
**5.4**

- 学力の分布は、頂点が得点の高い方に寄った山型です。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の得点率が「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」よりも高くなっています。
- 場面や目的に応じ相手に伝わるように根拠を明確にして話すことや書くことに課題が見られます。

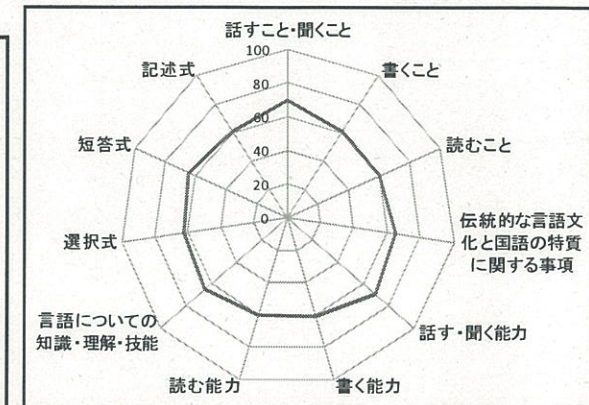
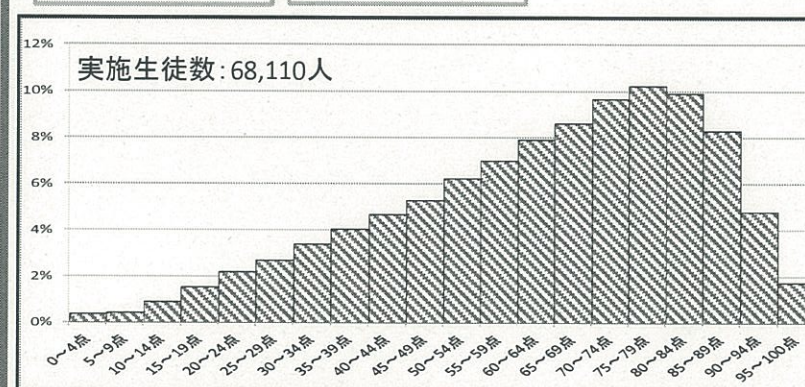


### 中学校2年【国語】

平均得点  
**62.9点**

無解答率  
**5.3**

- 学力の分布は、頂点が得点の高い方に寄った山型です。
- 各分類・区別の得点率は概ね60~70%の間にあり、バランスの良い状況です。
- 文章の構成や展開について自分の考えを持つことに課題が見られます。

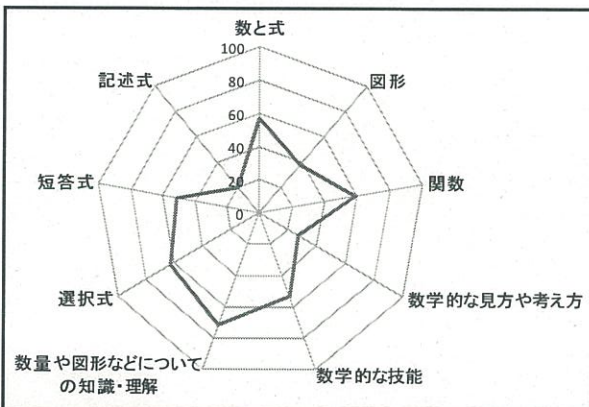
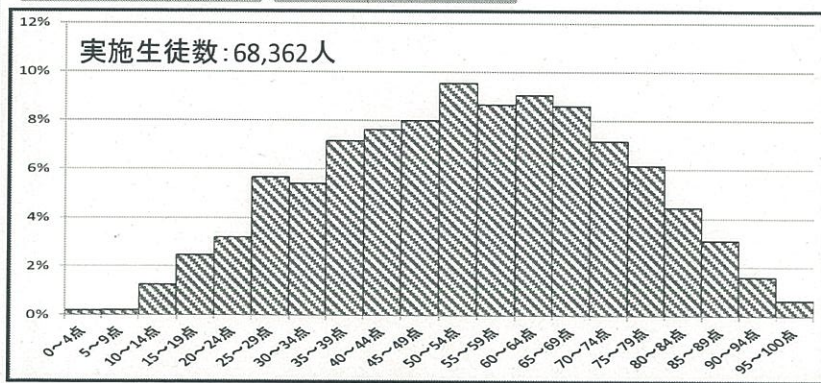


### 中学校1年【数学】

平均得点  
**53.7点**

無解答率  
**5.9**

- 学力の分布は50~54点を頂点とする山型です。
- 評価の観点である「数学的な見方や考え方」や記述式の問題形式の得点率が低く課題が見られます。
- 移動前と移動後の二つの図形の関係を調べ、図形の移動のきまりを見出すことに課題が見られます。

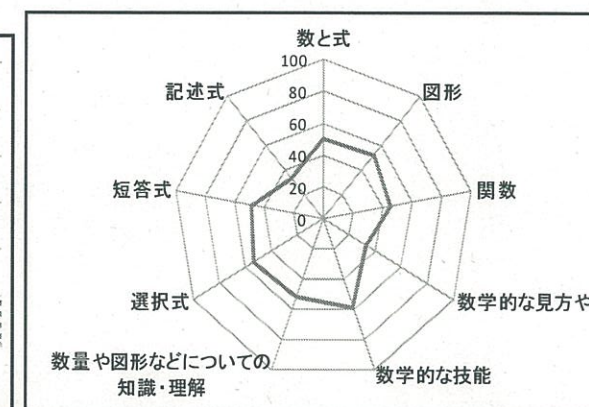
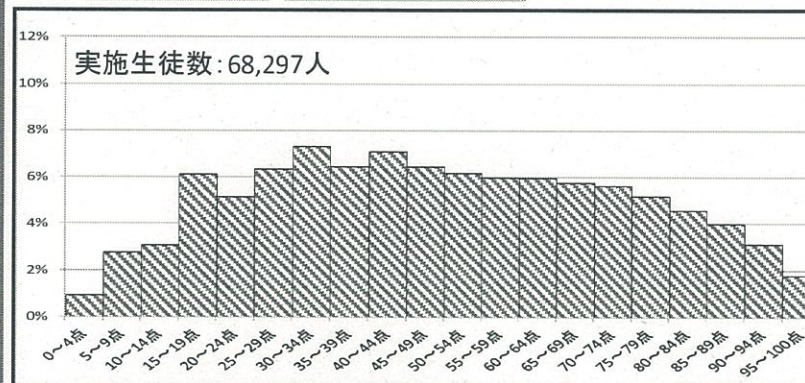


### 中学校2年【数学】

平均得点  
**49.4点**

無解答率  
**7.5**

- 学力の分布は、頂点が得点の低い方に寄った山型です。
- 評価の観点である「数学的な技能」の得点率は高いですが、「数学的な見方や考え方」や記述式の問題形式の得点率が低く課題が見られます。
- ことばや図、式のつながりを正しく理解することに課題が見られます。

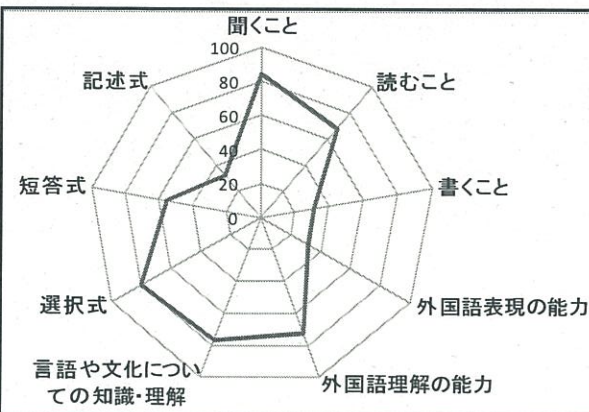
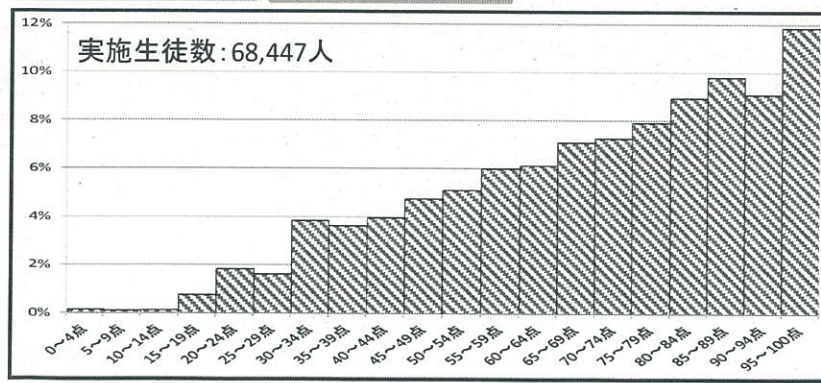


### 中学校1年【英語】

平均得点  
**69.3点**

無解答率  
**4.9**

- 学力の分布は、95~100点を頂点として得点の低い方に広がっています。
- 「書くこと」の領域、「外国語表現の能力」の観点及び記述式の問題形式の得点率が低く課題が見られます。
- 文章の流れに応じた適切な英文を書くことに課題が見られます。

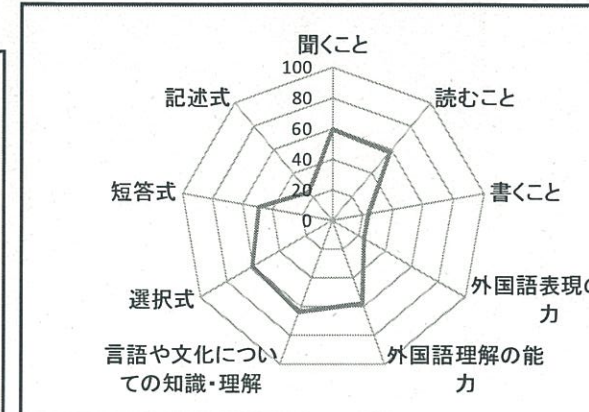
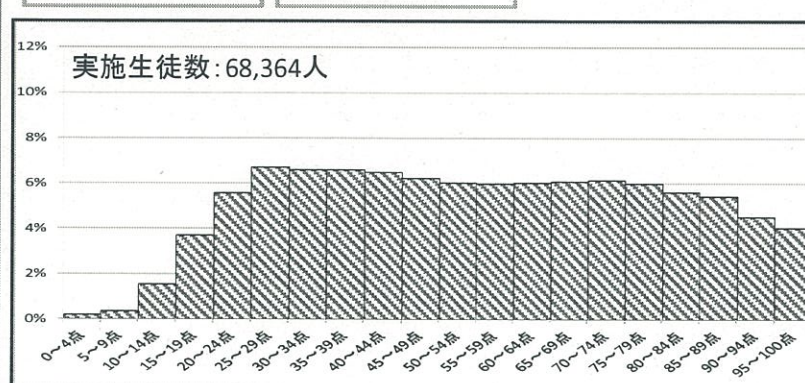


### 中学校2年【英語】

平均得点  
**55.0点**

無解答率  
**3.8**

- 学力の分布は、得点の低い方にかたよりのある台形型になっています。
- 「書くこと」の領域、「外国語表現の能力」の観点及び記述式の問題形式の得点率が低く課題が見られます。
- 複数の情報を読み取り、内容を理解することに課題が見られます。

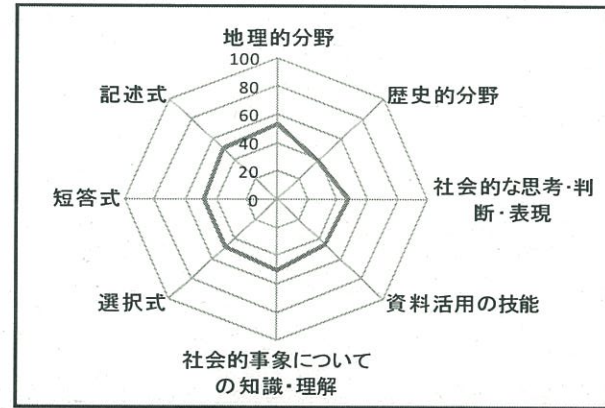
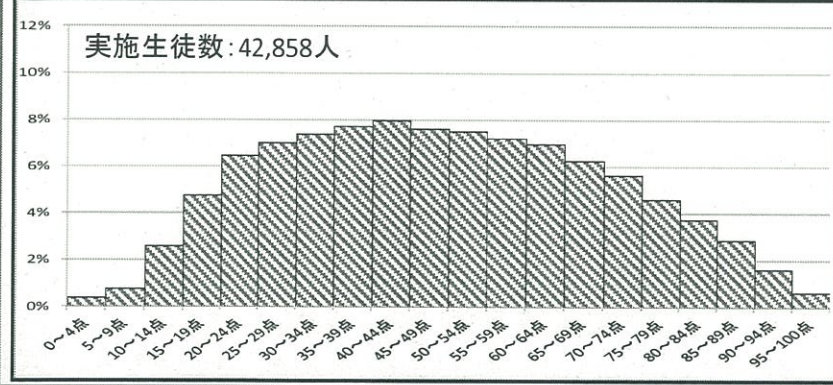


### 中学校2年【社会A】

平均得点  
48.5点

無解答率  
6.3

- 学力の分布は、頂点が得点の低い方に寄った山型です。
- 問題形式別(「選択式」「短答式」「記述式」)の得点率は概ね50%であり、バランスの良い状況です。
- 江戸時代の政治の特色を考察し、適切に表現することについて課題が見られます。

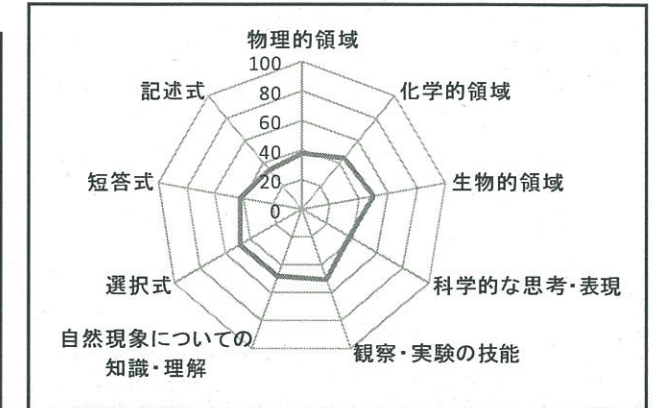
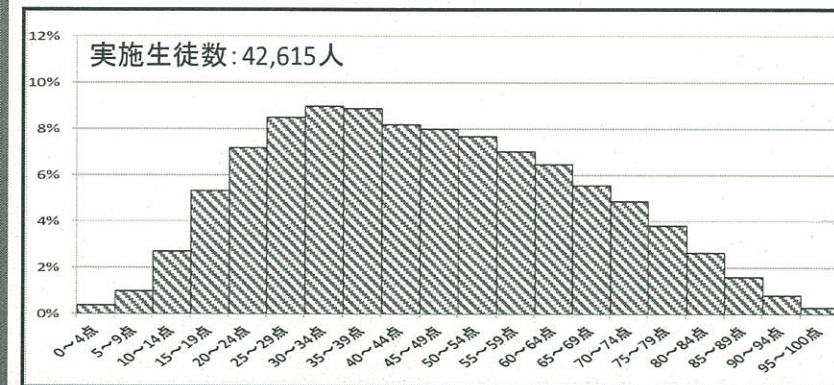


### 中学校2年【理科A】

平均得点  
45.4点

無解答率  
4.7

- 学力の分布は、頂点が得点の低い方に寄った山型です。
- 評価の観点である「科学的思考・表現」の得点率が低く課題が見られます。
- 知識や実験結果をもとに理由を書くなど、記述式の問題形式に課題が見られます。

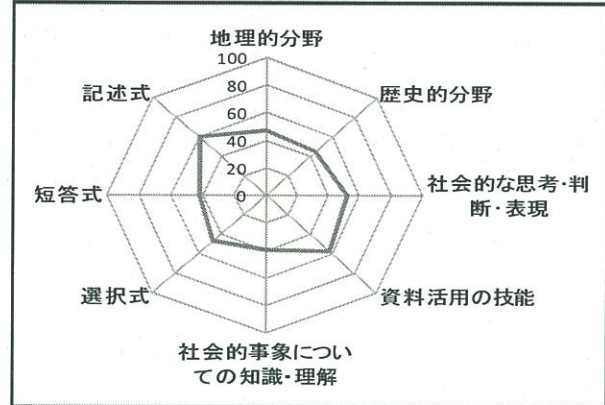
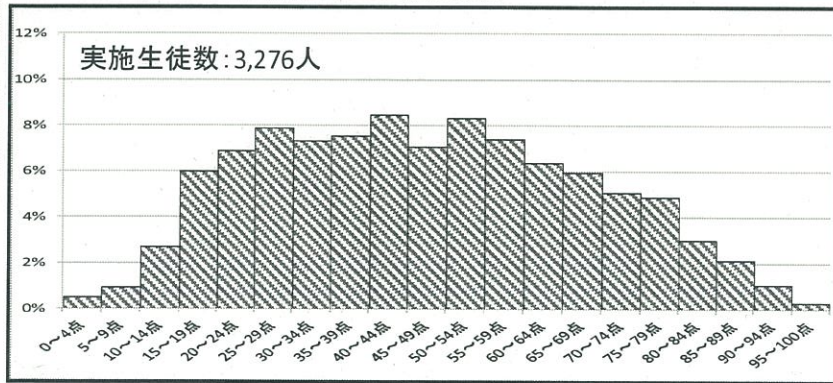


### 中学校2年【社会B】

平均得点  
46.6点

無解答率  
7.6

- 学力の分布は、頂点が得点の低い方に寄った山型です。
- 資料をもとに考察し、適切に書き表すなどの記述式の問題形式の得点率は概ね60%と高い割合です。
- さまざまな資料から情報を読み取り、適切に判断することについて課題が見られます。

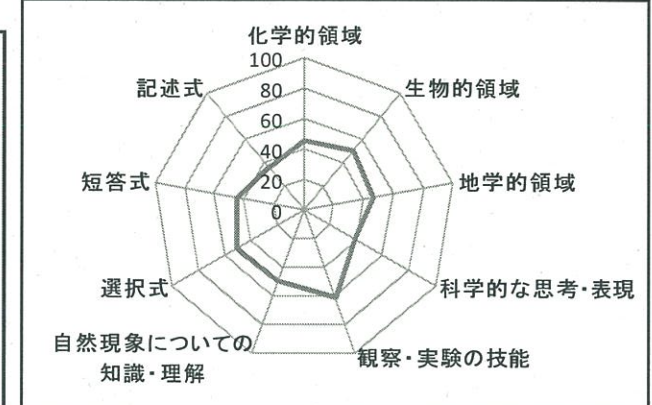
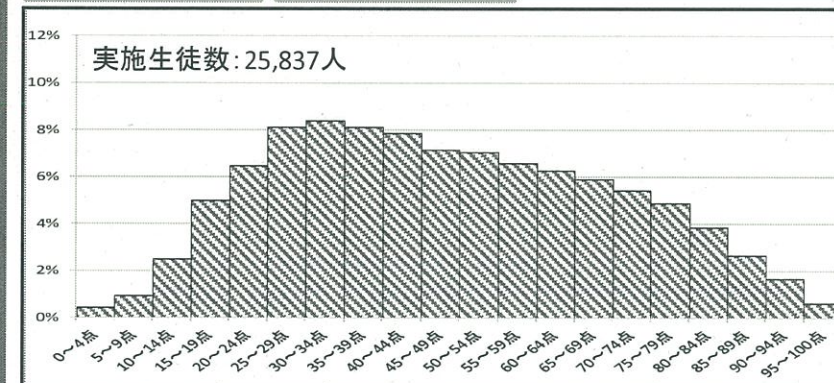


### 中学校2年【理科B】

平均得点  
47.8点

無解答率  
5.3

- 学力の分布は、頂点が得点の低い方に寄った山型です。
- 評価の観点である「観察・実験の技能」の得点率は高いですが、「科学的思考・表現」の得点率は低く課題が見られます。
- 知識や実験結果をもとに理由を書くなど、記述式の問題形式に課題が見られます。

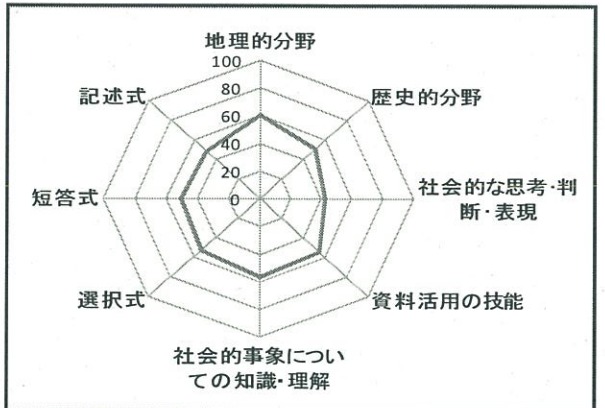
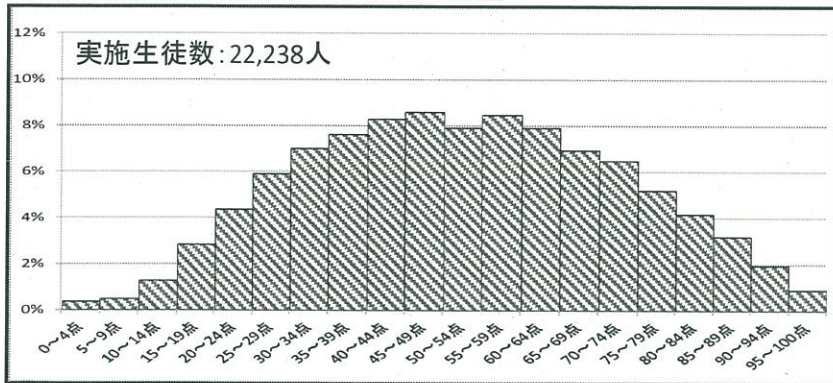


### 中学校2年【社会C】

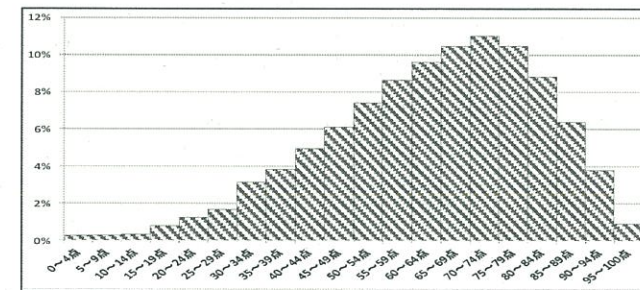
平均得点  
51.9点

無解答率  
6.0

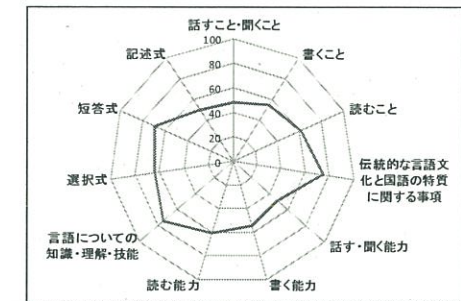
- 学力の分布は、45～49点を頂点とした山型です。
- 問題形式別(「選択式」「短答式」「記述式」)の得点率は概ね50%であり、バランスの良い状況です。
- 2つの地形図の比較をもとに、地域の変化を考察し、適切に表現することに課題が見られます。



### データの見方



【ヒストグラム】  
5点ごとに区切った得点ごとの生徒の割合を示したもの



【レーダーチャート】  
「領域」や「評価の観点」、「問題形式」別の結果のそれぞれの配点に対する割合を線で結んだもの

■本調査の結果とともに、ワークブックや「かだめしプリント」などの学習に役立つ情報については、大阪府教育委員会 市町村教育室 小中学校課のWebページにおいてもお知らせしていますので、ご活用ください。  
 ワークブック <http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>  
 かだめしプリント <http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

■今回お知らせする調査結果は、学力や学習状況の一部であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。